

平成28年度第1回  
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会  
(資料評価部会 美術部会)  
議事録要旨

平成28年11月11日(金)  
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 3 時 23 分開会

**小南企画調整課課長代理**：定刻前ではございますが、委員の方お集まりいただきましたので、始めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、「平成28年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会 美術部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部課長代理の小南と申します。本日は司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございまして、収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会でございます。また、本評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品として価格が適切か否かを個別の委員の方々に評価いただく会となっております。

なお、本日午前中に収集部会のほうは終えまして、今回お諮りしております作品については、収集が適当という形の御意見をいただいております。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げます。

**小林副館長**：お忙しい中、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会の評価部会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

今年度第1回の資料収蔵委員会となります。本評価部会は、美術品等を中心に評価していただくこととなります。

さて、4年後に迫ってまいりました2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、世界中から日本文化への関心が高まっております。江戸東京文化の魅力をより一層国内外に発信するため、今回は特に歴史的、あるいは美術的価値の高い資料の収集に重点を置きました。いずれも常設展示室、あるいは展覧会での活用が可能であり、江戸東京博物館においては必要不可欠な資料でございます。

本日は御審議のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

**小南企画調整課課長代理**：それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。

私のほうの近くからということで、浅野委員でございます。

田辺委員でございます。

大久保委員でございます。

内藤委員でございます。

ありがとうございます。

なお、常任委員の鈴木委員につきましては、事前に御欠席ということで御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これから議事に入りたいと思いますが、それに先立ちまして、当部会の公開について御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、当部会は原則公開となっておりますので、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページのほうで公開をさせていただいております。

また、当部会の議事録は、資料収集が東京都として決定した後に公開を予定しております。ただ、公開に当たりまして支障のある内容がないかどうか、事前に確認をさせていただきたいと考えております。なお、委員個別の価格評価につきましては非公開となっております。

それでは、議事に入りたいと思っております。

まず、新田から、本日御評価いただく資料の説明をさせていただきます。

**新田事業企画課長**：説明の前に、まず、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

一番上でございますのが会議次第。

A4縦版で委員名簿。

東京都江戸東京博物館収蔵委員会設置要綱、これがホチキスどめ2枚になります。

当収蔵委員会説明資料、こちらがホチキスどめで3枚分ございます。

A3横版、平成28年度第1回資料収蔵委員会(美術部会)評価票、A3で1枚でございます。

その後ろにA3横版で、平成28年度第1回資料収蔵委員会資料(資料評価部会 美術部会)、こちらがホチキスどめで表紙と本紙となります。

このほかパンフレット、図録が入りました袋がございます。過不足等ございませんでしょうか。

なお、お配りした名簿の肩書などに誤りがございましたら、恐縮ですが、後ほど事務局のほうへ御連絡ください。

また、お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報がございますので、会議後、回収をさせていただきます。

それでは、本日御評価いただく資料の説明をいたします。お手元の説明資料をもとに御参照いただきながら、よろしくお願いいたします。

まず第1番ですけれども、「初鯉・蝦図」、窪俊満画、大田南畝ほか賛でございます。

大田南畝を初め、浅草庵市人、鹿津部真顔、宿屋飯盛ら著名な7名の狂歌師が初鯉の狂歌を読んで賛とし、窪俊満が初鯉と海老を描いた画幅です。南畝と俊満は親しい交流があったため、このような画幅を幾つか制作しており、奈良県立美術館など各所で所蔵されております。

江戸っ子は旬を迎える前の初物に敏感でございましたが、特に4月の初鯉に対してはこの傾向が顕著で、我先にと熱狂して買い求めるため高価になりました。南畝もまた初鯉を

こよなく愛し、これにまつわる狂歌を数多く読んでございます。この賛の「鎌倉の海より  
いてしはつかつほ ミなむさしのゝはらにこそいれ」という狂歌は、南畝のお気に入りであ  
ったそうです。

江戸の四季や食文化をあらゆる資料として、江戸の文化交流を示す資料として、展示や  
研究などで活用が見込まれると考えてございます。

2 番目「市川鰻蔵の竹村定之進」、東洲斎写楽の作品です。

寛政6年5月の江戸三座夏狂言において上演された「恋女房染分手綱」に取材した作品  
です。江戸歌舞伎を牽引した名優として知られる市川鰻蔵を描いております。背景を黒雲  
母摺にした大判大首絵28図の中の代表作で、鰻蔵の堂々とした貫禄と風格がにじみ出た傑  
作として、写楽の中でも特に評価が高い作品でございます。鰻蔵の痩せた体軀と高い鼻の  
特徴をよく描き出すとともに、定之進切腹前の舞台の緊張感を少ない描線で見事に捉えて  
おり、写楽の表現力が遺憾なく発揮されております。

作品の表面右上に林忠正の印、右下にアンリ・ヴェヴェールの所蔵印があるとおり、明  
治期に美術商の林忠正から、パリの宝石商で浮世絵コレクターとして著名なアンリ・ヴェ  
ヴェールの手に渡ったものでございます。

当該作品には、数種の異なる版があることが知られております。本品は、東京国立博物  
館所蔵品などより不鮮明ではありますが、落款の位置が低く、着物は橙色、袴は青色で摺  
られております。右袖の三升紋がやや内側で切れますが、余白部分は残ってございます。  
顔等に絵の具のしみが見られ、本紙に脆弱な箇所も見られるものの、作品全体の印象は大  
きく損なわれておりません。作品のトリミングはほぼないと考えられ、その点はほかと比  
較しても大変珍しいものでございます。なお、本紙裏面には、墨で役者絵姿の下書きが描  
かれております。

写楽の名品として、今後開催が予定されている館蔵名品特別展での展示や、常設展の無  
料開館日などでの幅広い公開、海外発信事業などでの活用を行い、あわせて恒久的な保存  
環境のもと、次世代へ継承したいと望んでおります。

3 番目「歌撰恋之部 物思恋」、喜多川歌麿の作品です。

「歌撰恋之部」は、顔を中心とした美人大首絵で背景を紅雲母摺とした5枚ぞろいのシ  
リーズ作品です。歌集の部立ての1つ「恋」をテーマに、年齢や境遇の異なる女性の姿を  
描き出し、それぞれの恋の諸相が仕草や表情で意欲的に描き分けられております。

「物思恋」は、既婚と思われる女性が、優美に曲げた手で頬づえをつき目を細めて物思  
いにふけています。頬づえをつく女という着想は、石山寺で『源氏物語』を執筆する紫  
式部やその見立て絵を描くのに繰り返し使用されておりましたが、本品の綿密に計算し尽  
くされた細部の描写に、一層の奥行きを付与しております。作品の来歴は不明ですが、裏  
面にかつて張られていた洋紙の状況から、少なくとも一度は海外に渡った里帰り品と推察  
されます。

ギメ東洋美術館所蔵の同作のコンディションが格別によいことで知られておりますが、

それと比較すると、上下左右にトリミングが見られ、また紅雲母摺の色味や女性の着物にも色あせがあり、作品上部中央に若干の傷が見られるといった点もございます。

ただし、上下左右のトリミングについては、他所蔵の同作や同シリーズにも類似した特徴があることから、比較的早い段階からのものの可能性が考えられます。本購入作品はこのような欠点も見られますが、細部の描写など作品の持つ優美さは十分に保たれております。

「歌撰恋之部 物思恋」は傑作として名高く、また国内の公立博物館・美術館での所蔵がない貴重な作品であり、当館が収蔵する意味は大きいと考えております。常設展示や各種展覧会などで広く鑑賞に供したいと思っております。

続きまして、4番「高島おひさ」、同じく喜多川歌麿の作品です。

寛政三美人の一人として知られる高島おひさを描いた作品です。歌麿は、遊女の美人画を描く傍ら、こうした評判の女性たちもモデルにしておりました。

本図は、黒の麻緋の帷子を身にまとい、うちわを手にした夏の風情をあらわしております。画面の左上には、おひさを評した狂歌短冊が記されております。

歌麿の美人画制作において、寛政5年ごろから8年ごろは、女性の内面描写、衣装や髪の毛などの表現技術の向上に意欲的な時期とされております。本品においても、夏の衣装として描かれている麻緋の生地質感表現や襟足の後れ毛等の表現に高度な彫りと摺りの技術がうかがえます。

寛政美人画リーダーの歌麿の作品として、また江戸の風俗、歌麿の才能を開花させた版元・蔦屋重三郎や狂歌連の関係を示す資料として、常設展示「文化都市江戸」「江戸の美」での展示を初め、近世絵画に関する特別展示など、さまざまな切り口からの活用が期待できます。

5番目「音曲恋の操 お七 吉三郎」、同じく喜多川歌麿の作品です。

喜多川歌麿のシリーズ作品「音曲恋の操」の一図です。若い男女が人形を操り、浄瑠璃を演じる姿を描いております。「お七 吉三郎」は、恋人に会いたい余りに放火事件を起こし火刑に処された八百屋お七の物語を題材としたもので、人形を操る男女の関係を暗示しております。同シリーズは現在、「山姥 金太郎」「梅川 忠兵衛」「夕霧 伊左衛門」「おこま 才三郎」など9種の伝来が確認されております。このうち「お七 吉三郎」は、本品のほかには、現在のところクリーブランド美術館に所蔵されていることが確認できません。本品の状態は、一部に若干の退色が見られますが、全体には比較的良好でございます。

画題が江戸の大火と男女の恋情、人形浄瑠璃にちなむこの作品は、江戸文化を取り上げる特別展のほか、常設展示「町の暮らし」や「出版と情報」「江戸の美」などの多彩なコーナーで利用できる作品と考えております。

6番目「讃岐院眷属をして為朝をすくふ図」、歌川国芳の作品です。

保元の乱の英雄源為朝の流転と琉球王国の創始を奇想天外に描いた曲亭馬琴の読本『椿説弓張月』を題材にした作品です。戦いに敗れ流罪にされた為朝が、再起して平家討伐の

兵を起し海上を京都へ向かう途中に遭難し、崇徳院が遣わした烏天狗に救われる場面を描いております。

大胆な構図に、灰色を使って異界の存在たる烏天狗を描き、胡粉で波しぶきをあらわし、大鰐鮫の冷ややかな質感がつたわりそうな鱗模様や色彩表現など、随所にリアリティー効果を生み出す工夫が施されております。作品の状態は、本紙に折れはあるものの良好です。歌川国芳の代表作の一つであり、馬琴の文学にちなんだ作品でもあることから、常設展示コーナー「出版と情報」「江戸の美」での展示や、江戸文化を扱う特別展示など、幅広い活用が期待できます。

7番目、ポスター「駕籠に乗れる美人」、吉田初三郎の作品です。

昭和5年4月、外国人観光客誘致の政府機関として鉄道省に国際観光局が創設されました。本資料は、その初年度に配布された対外向けの観光宣伝用ポスターです。作画を担当したのは、スケールの大きな鳥瞰図で有名であった吉田初三郎です。富士山を背景に駕籠に乗る女性を描いたこのポスターは、欧米各国の大使館や教育機関に送付され、好評を博しました。

本資料は、長期間の保管によって亀裂があり、補彩を含めた修理がなされておりますが、幸い退色はほとんど見られておりません。海外での使用を目的に製作されたものであるため、これまで国内で確認できるものは、個人が所蔵する1点のみでございました。

本資料は、我が国における外国人観光客誘致の記念碑的作品として、また広告メディア史上の画期となる作品として貴重な一品です。昨年度当館が収蔵した、同様の背景を持つ川瀬巴水の木版画ポスター「宮島」とともに、特別展のほか、常設展示コーナー「東京文化展望－メディアの進展」などで展示をしたいと考えております。

説明は以上でございます。

**小南企画調整課課長代理：**何か今の時点で御質問、御意見などはございますでしょうか。

もしよろしければ、次に、評価方法について説明させていただきます。

資料といたしましては、A3横の評価票と書いてある1枚物の資料があるかと思いますが、こちらに金額を記載いただきまして、右下に御署名いただければと思います。

評価の仕方につきましては、評価額のうちの最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を本委員会としての評価額とさせていただきます。

この時点で何か御質問、御意見があればですけれども、よろしいですか。

それでは、資料の現物確認をしていただきたいと思いますので、移動をお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

**小南企画調整課課長代理：**それでは、議事を再開させていただきます。

資料をごらんになりまして、何か御意見、御質問がございますでしょうか。

特に御質問などございませんようでしたら、お手元の評価票に評価価格などを御記入いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

御記入がお済みになった方は、係の者が確認いたしますので、お声がけいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。また、確認が終わりましたら、適宜御退席ただいて結構でございます。

それでは、これをもちまして「平成28年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会 美術部会）」を終了いたします。ありがとうございました。

午後4時17分閉会

以上